

鉄に比べて難しいとされるアルミニウム合金の溶接。軽量・耐食性や優れた低温特性から産業分野での適用が広がる一方、融点が低く溶接によるひずみも生じやすいなど、技術力の高い企業でもその取り扱いが容易でない。だが、有田市にある箕島高校はアルミ溶接を授業のカリキュラムに取り入れ、溶接への好奇心を引き出すことに成功している。

「われらおのこの凛烈の意気」。高校野球で甲子園に流れた校歌に、馴染みがある人もいるかもしれない。甲子園常連校として名高い同校は、元西武ライオ

若き継承者

次代担う高校生・専門生⑦ 和歌山県立箕島高校

ンズの東尾修投手など、優れたスポーツ選手を数多く輩出。昨年もベスト8まで勝ち残り、夏の甲子園を沸かせた。

同校は普通科、情報経営科、機械科があり全校生徒は720人。機械科には120人が在籍する。ピーク時は総生徒数1500人を数えたが、少子化や過疎化の影響もあり20年前に比べて生徒数は半減した。機械科も3年前まで1学年に2クラスがあったが、今は1

クラスの生徒は機械科の専門棟である宮島校舎と箕島校舎の行き来を余儀なくさ



「あどない(あどけない)」と生徒を評する宮本和幸教頭

資格取得奨励にも力を入れ、昨年度は3年生で2級

企業で20、60時間程度就業体験し、専門的な技能だけでなく挨拶、身だしなみといったコミュニケーション能力の養成も図る。昨年

ボーラー技士8人、危険物取扱者種に延べ24人が合格している。就職率も毎年100%で、住友金属や三菱電機、東燃ゼネラル石油など県内有力企業に人材を送りだしてきた。

2007年からは「地域産業の担い手育成プロジェクト」の1校に指定され、県内製造業と連携して即戦力を育成する実践教育に取り組む。同プロジェクトでは、日本版デュアルシステム(長期の実地訓練)やインターンシップ、工場見学などを通じて、ものづくりの現場を体験。

度は東燃ゼネラル石油や大和自動車製作、大本産業などで実地訓練を行っている。厚3〜5mmのアルミ突合せ溶接やすみ肉溶接を1日3時間マンツーマンで指導するもので、中身は濃い。宮本教頭は、「プロの美しい実習を担当するのは、アルミ溶接で日本屈指の技術力を誇る坂口製作所(有田川町)の技術者。2年と3年合わせて年39時間の実

プロの技に目の色変わる

実践指導を受ける。内容は、同社技術者が板厚3〜5mmのアルミ突合せ溶接やすみ肉溶接を1日3時間マンツーマンで指導するもので、中身は濃い。宮本教頭は、「プロの美しい実習を担当するのは、アルミ溶接で日本屈指の技術力を誇る坂口製作所(有田川町)の技術者。2年と3年合わせて年39時間の実

指導に来た技術者から『うまいね』といった何気ない声が生徒の進路を変えたケースもあった」と手応えを語る。

アルミ溶接を体験した3年の武田光平君も、「溶加棒を45度に傾けた方がよいなど親切に教えてくれた。1年の時の溶接実習は難しすぎてあまり興味が持てなかったが、ティグ溶接はおもしろかった。溶接に対する考えが少し変わった」。

宮本教頭は、「私自身も機械科の出身。生徒には油まみれになりながらもものづくりに誇りが持てるようになしてほしい」と、思いを語って結んだ。



坂口製作所によるアルミの溶接指導